

# 令和元年度 ロームシアター京都 指定管理業務 自己評価書

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

## 1 業務概要

ロームシアター京都は、令和元（2019）年度においては、各施設の特性を生かした舞台芸術公演や式典、集会や MICE といった様々な利用により、ホール来館者数47万人、店舗入店者数172万人を超える多くの方にご利用いただくことができました。

自主事業では、ロームシアター京都において掲げている4つの要素「創造」「育成」「交流」「生活」を核としながら、洋の東西を問わず世界水準の優れた作品をお届けすることはもちろん、劇場の財産となる作品のプロデュースや次代を担う芸術家の育成にも取り組みました。更にロームシアター京都が開かれた場として、人々の交流を活性化させるべく、京都の様々な施設や団体と連携しながら、地域に根をおろしていく事業を展開しました。

また、賑わいスペース事業者（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）や公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションとの連携のもと、ホール以外での催しや取組を展開し、劇場が開かれた場として、人々の日々の生活に寄り添う存在となるよう努めてきました。

その一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年2月及び3月に利用が予定されていた催しで中止となったものがあり、自主事業においても中止せざるを得ない事態が生じるなど、施設の利用や事業等に影響が出ました。

なお、令和2年4月から就任予定として発表した館長人事案件については、劇場関係者をはじめとして、館長就任を巡って生じた懸念や、係争中の事案を抱える方を館長として発表した京都市及び当財団に対する批判の声もお聞きしている状況であることを受け、信頼回復に向けた取組を確実に実施するため、館長就任を1年延期することとし、市民や劇場関係者の皆様に対する信頼回復のための取組の具体的内容について、京都市とともに検討を進めることとしました。

以上を前提として、本評価書では、指定管理業務の実施状況について、自己評価の視点から報告します。

## 2 事業に関すること

### (1) 概要

令和元年度は、32事業87公演10講座を計画し、うち4事業8公演2講座を新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止としましたが、その他については実施し、自主事業の総入場者数は43,409人でした。

自主事業（主催事業・共催事業）の詳細は、以下、各項目ごとに、提案書記載の事業を中心に、実施した事業の特色や課題について記載します。

### (2) 文化芸術の創造及び振興に関する業務

#### ① 自ら企画・制作する作品の上演

ロームシアター京都が自ら企画・制作する作品の上演を、主に「レパトリーの創造」と「舞台芸術としての伝統芸能」の2シリーズとして計画し、準備を進めてきました。

「レパトリーの創造」に位置付けている「ショールームダミーズ#4」では、約1年間に

わたり、オーディションから本番までの一連の流れを当劇場で制作しました。作品内容としては、世界中で再演されていくことを目標としうる作品が制作でき、海外のアーティストとの協働なども含め、劇場のスキルアップにも繋がった重要な事業となったと考えています。公演特設サイトを作成して、コラムやインタビュー、稽古場レポート、公演レビューなどを複数掲載し、SNS等での配信や関連イベントの実施といった工夫もしましたが、今後の課題としては、より多くの観客の来場を促すため、ファン獲得の仕組みづくり、広報や営業、関連プログラムの充実などをさらに検討していく必要があると考えています。

なお、「舞台芸術としての伝統芸能」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、公演直前に中止しましたが、上演する準備は整っており、次年度以降に延期し実施を予定しています。

(主な事業)

- ・レパートリーの創造  
「ジゼル・ヴィエヌヌ、エティエヌヌ・ビドー＝レイ「ショールームダミーズ #4」
- ・舞台芸術としての伝統芸能 (中止)

## ② 外部の文化芸術団体等と協同し制作する作品の上演

この枠組みでは、京都市交響楽団が歴史と実績のある東京バレエ団と共に公演を行う機会が実現し、クリスマスシーズンにあわせ企画を工夫したこともあり、幅広い年齢層の多くの方にご来場いただきました。

また、演劇公演「inseparable 変半身 (かわりみ)」では、三重県文化会館、神戸文化ホールとの3館での共同制作により、芥川賞作家の村田沙耶香氏と岸田戯曲賞作家の松井周氏による共作作品を上演しました。当劇場が他の劇場や芸術団体とこれまで培ってきたネットワークを生かした形での企画・実施となっており、こうした連携を今後も続けていけるよう、日頃から情報収集や関係づくりに努めることが必要と考えています。

(主な事業)

- ・東京バレエ団×京都市交響楽団 クリスマススペシャル  
バレエ「くるみ割り人形」<全幕>
- ・村田沙耶香×松井周 inseparable「変半身 (かわりみ)」

## ③ 芸術性の高い舞台芸術作品の招聘

ディミトリス・パパイオアヌーの「THE GREAT TAMER」では、演出家や作品の高い評価や話題性とともに、早い段階から広報戦略を立て、効果的な宣伝に努めた結果、当初目標を超える集客数を達成することができました。来場者はダンスファンだけでなく、美術・ビジュアルアートに興味関心のある幅広い世代(10代~50代)が集い、アンケートや会場の様子からも満足度の高さが伺えています。

なお、この公演は、大規模な海外ダンス作品の招聘実績がある彩の国さいたま芸術劇場と共同招聘をしており、広報や舞台技術の点で深い連携を図れたことが、公演の成功の大きな一因であり、劇場としても様々なノウハウを得ることができたと考えています。

また、室内オペラ「サイレンス」では、日ごろなかなか鑑賞する機会がない「室内オペラ」の鑑賞の場として、川端康成の短編小説『無言』を素材に、グラミー賞やゴールデングローブ賞で作曲賞を多数受賞している注目の映画音楽作曲家アレクサンドル・デスプラが新たに発表した室内オペラの日本初演として公演が実現しました。集客には苦戦をしましたが、舞台芸術、美術やファッションに興味のあるユースチケット対象者(25歳以下)の観客を開拓するとい

った当初の計画を達成するために、音楽だけでなく、文学・映像・ファッションなど多方面にアプローチできたことは、新たな観客の開拓につながり、また劇場としての今後の広報活動にも生かせるものと考えています。

京都国際舞台芸術祭(KYOTO EXPERIMENT)では、当財団は同祭の実行委員会の中核団体として、また、劇場は主会場の一つとして、実験的な作品の上演や国内外のアーティストや参加者の交流の場の実現に寄与できたと考えています。また、ポーランドからの招聘作品「マルガレーテ」では、小規模な作品ながらも1週間の公演期間中、毎回ほぼ満席という状況となり、なかなか直接触れる機会のないポーランドの文化を紹介する貴重な機会となったと考えています。

年5回実施している市民寄席は、上方落語協会の協力もあり、毎回多くの方にご来場いただくことができましたが、若い世代等の新たな鑑賞者の開拓が中長期的な課題であると考えています。

#### (主な事業)

- ・ディミトリス・パパイオアヌー「THE GREAT TAMER」
- ・室内オペラ「サイレンス」〈日本初演〉
- ・KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2019
- ・日本ポーランド国交樹立100周年記念 ヤネック・ツルコフスキ「マルガレーテ」
- ・第345回～第349回 市民寄席

#### ④鑑賞者、製作者、舞台技術者等の育成を目指した事業

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、今年度は高校からの申込みが多く、2日間とも多くの高校生が鑑賞し、盛況となりました。京都市内の主要駅を中心とした公演ポスターの駅貼りや、会場での看板設置、WEBサイトやSNSでの情報発信などを行い、本事業の開催をより多くの人に知ってもらい取り組みも実施するとともに、高校生の鑑賞という事業目的のためにも、高校からの申込み数が安定していくための対策を引き続き実施していく必要があると考えています。

京都芸術センターと共同で実施している「KIPPU」については、今年度は2団体の公演を実施しました。創作の場・上演の場のそれぞれを支援する本プログラムは、若手アーティストを支援するプログラムとして広く知られるようになってきており、応募が多数あるよう工夫しながら、継続して実施していきたいと考えています。

また、新たに開始した「劇場の学校プロジェクト」は、演劇、舞踊、メディア表現の3コースを設け、中高生も対象として実施し、受講者からも好評を博しました。今回の実施内容を踏まえ、今後、継続的に実施し、次代を担う若者を育成する事業の柱となっていくよう、充実させていきたいと考えています。

能楽チャリティ公演や京都薪能レクチャー「能の世界へおこしやす」は、例年開催している定番の催しとして、円滑に開催できていますが、リピーターの定着の一方で、今後は、新たな鑑賞者等の開拓を意識した工夫も考えていく必要があると考えています。

なお、小澤征爾音楽塾については、本事業のために海外から来日する関係者や塾生も多いことなどもあり、新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、中止としました。

#### (主な事業)

- ・小澤征爾音楽塾 (中止)
- ・新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019「蝶々夫人」
- ・ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”
- ・劇場の学校プロジェクト
- ・能楽チャリティ公演 ～被災地復興、京都からの祈り～

- ・京都薪能 レクチャー

## ⑤その他、劇場文化の形成を促進するプログラム

「プレイ！シアター in Summer 2019 オープンデー」では、夏休み期間中に、ロームシアター京都全館で2日間、様々なプログラムを実施し、のべ1万人を超える来場者があり、多くの方で賑わいました。京都市交響楽団による「0歳から入場可能なコンサート」では、子どもたちにプロフェッショナルの生演奏を聴いてもらう機会を作るだけでなく、日ごろなかなかコンサートに行くことができない子育て世代の方々からも貴重な場として好評を博しました。他にも、上演型インスタレーションや、子どもディスコ、トークイベント、子ども向け建築ツアー、キーワードラリー、フラッシュモブ、屋台等、ホールのみならず施設全体を活用した内容により、劇場という場を様々な形で体験していただくことができましたと考えています。

舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的とした「リサーチプログラム」、また、現代社会を捉え直すトピックを基に専門家とアーティストが登壇する「いまを考えるトーク」についても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあったものの、継続して実施することができました。記録等を冊子やインターネットで公開することにより、トークイベント等に来場できなかった方や、将来、関心を持たれた方にも生かしていただけるように工夫をしています。

こうしたいわゆる「公演」とは異なる形で、劇場が持つ施設や人材を活用した事業についても、劇場文化の形成という点から、継続して取り組んでいくことが重要と考えています。

なお、KYOTO STEAM—世界文化交流祭—2020の一環として、当劇場が制作した「ダムタイプ 新作パフォーマンス『2020』」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公演を中止し、映像収録のみとしました。映像に関しては、後日の公開を調整しています。

### (主な事業)

- ・プレイ！シアター in Summer 2019 オープンデー
- ・ロームシアター京都 リサーチプログラム
- ・「いま」を考えるトークシリーズ vol.9～vol.10
- ・KYOTO STEAM ダムタイプ (中止)

## ⑥その他

外部の文化芸術団体等が主催するものについて、劇場が共催で開催することにより、貸館公演等としては開催されにくい規模や内容の公演等を開催し、劇場で幅広く様々な催しが開催され鑑賞できるよう努めており、今年度もその目的に沿った共催事業を開催できたものと考えています。

### (主な事業)

- ・「母と惑星について、および自転する女たちの記録」
- ・「人形の家 Part2」
- ・全京都洋舞協議会 60周年記念公演
- ・ジョーン・ジョナス 京都賞受賞記念 パフォーマンス「Reanimation」
- ・康本雅子 新作ダンス公演「全自動煩悩ずいずい図」
- ・ANTIBO 東野祥子×SFFW コラボレーション「CORPO SURREAL(コーポ シューレアル)」

## (3) 憩いの場の提供に関する業務

賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下、「CCC」という。）と調整・連携を図り、市民や観光客の皆様の新たな憩いの場となるパークプラザを中心に、ブック&カフェ、レストラン、キオスクといった常設の店舗が高い評価を得て運営されるよう努めました。劇場スタッフと店舗スタッフによる定例のミーティングなどにより、劇場の催し情報はもとより、美術館やみやこめっせ、岡崎公園等の周辺施設の催し情報の収集・共有による商品の仕入れやスタッフの体制の細かな調整などを行っています。

また、ロームシアター京都が、舞台芸術のためだけではない、より開かれた場として多くの方の交流の場となることを目指し、CCCと連携し、「建築・デザイン・食」などをコンセプトとした生活文化等に関わる様々な文化イベントを実施しました。

これらにより、ロームシアター京都が、公演等の催しに来館される方々が快適に過ごせるだけでなく、催しの時以外にも常時その時々に応じて様々な文化芸術と出会える場として、今年度も非常に多くの方に来館していただき、賑わいにつながられたと考えています。

賑わいスペース事業 店舗等の概要

事業内容	店舗名	営業時間
ブック&カフェ (パークプラザ1階)	京都岡崎 蔦屋書店 スターバックスコーヒー	午前8時から午後10時
レストラン (パークプラザ2階)	京都モダンテラス	午前8時から午後11時
キオスク (サウスホール1階 ホワイエ内)	ファミリーマート	午前8時から午後10時
ギャラリー・ライブラリー (パークプラザ3階 共通ロビー内)	BOOK & ART GALLERIA	午前9時から午後7時 (開館時間等に応じて変更)

店舗入店者数

区分	令和元年度
入店者数の実績値	1,720,295人

#### (4) 市内劇場文化の活性化に資する業務

上記「④鑑賞者、製作者、舞台技術者等の育成を目指した事業」にも記載の KIPPU により、創作や上演の場の提供や制作業務の支援等による若手アーティストの発掘や育成等を行うことで、市内劇場文化の活性化につながる取り組みを進めており、今後もこうした形で継続していくことが重要と考えています。

## (5) その他施設の目的を達成するために必要な業務

### ① 広報

主催事業ラインアップ・リーフレット、催物カレンダーの作成、ホームページや SNS の運用、CCC と連携した取組、また、様々な広報媒体への働きかけ等により、多様な劇場への関心や関わり方、また情報の受け取り方等に応じた効果的な情報提供や話題作りを行うよう努め、ロームシアター京都の事業内容について理解していただくとともに、施設の認知度をさらに高める取り組みを進めました。掲載記事等の主なものは別紙のとおりです。

### ② 助成制度の活用等による事業の充実

今年度も文化庁等の公的支援や民間団体の助成や寄付・協賛等を獲得することで、事業の充実を図ることができました。また、ロームシアター京都と京都コンサートホールの自主事業への寄付を広く求める制度として運用している賛助会員制度（サポーター・パートナー制度）についても、新規の会員獲得に取り組むとともに、会報誌の発行や会員向けイベントの開催等により、会員として継続していただくための工夫を行ってきました。

#### 助成金等

助成事業名等	助成団体等
「ショールームダミーズ#4」	アンスティチュ・フランセ日本
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019「蝶々夫人」	(公財)ローム ミュージック ファンデーション
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（公演）	文化庁
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（人材）	文化庁
劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	文化庁
地域の文化・芸術活動助成事業 連携プログラム	一般財団法人 地域創造

#### 協賛金等

事業名	協賛者名
レパトリの創造「ショールームダミーズ#4」	京都信用金庫
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019 「蝶々夫人」	ローム株式会社
東京バレエ団×京都市交響楽団 クリスマススペシャル バレエ 「くるみ割り人形」＜全幕＞	日東薬品工業株式会社
プレイ！シアター in Summer 2019 オープンデイ Special supported by 足立病院	医療法人財団 足立病院
OKAZAKI PARK STAGE 特設ステージ ” シマシマジマ”	森政産業株式会社

#### 賛助会員数と寄附金額

会員区分	令和元年度（万円）	
スペシャルサポーター（法人）	2 件	100
サポーター（法人）	28 件	290

スペシャルパートナー（個人）	36 件	176
パートナー（個人）	46 件	92
合 計	112 件	658

※合計 658 万円について、ロームシアター京都と京都コンサートホールの 2 館で活用する。

### ③地域活性化等

「(3) 憩いの場の提供に関する業務」にも記載の店舗の運営やイベントの開催等、また、CCC が開設している京都岡崎 蔦屋書店の WEB サイト等による情報発信などにより、岡崎地域の魅力向上に向けた取り組みを進めました。また、京都岡崎魅力づくり推進協議会とも連携し、同協議会が発行する「京都岡崎コンシェルジュ」への催し情報の提供等を行ってきました。

また、自主事業としてローム・スクエアを会場に、地域の団体等とも連携した催し「OKAZAKI PARK STAGE」を開催し、地域の活性化に継続的に取り組めたと考えています。

## 3 施設運営に関すること

### (1) 概要

令和元年度においても、各施設の特性を生かした舞台芸術公演や式典、集会、MICE といった様々な利用で、例年どおり非常に多くの方にご利用いただくことができました。

多様な利用内容に伴う様々なニーズに応えられるよう、利用者やお客様のご案内、場内サービス、各種設備の運転等について、実際の利用状況や利用者からのご意見等を踏まえた確認・改善を引き続き進め、安全、安心で快適な劇場空間の提供に努めました。

また、施設利用希望者の下見や利用相談への丁寧な対応、また利用者アンケートの実施等により、繰り返しロームシアター京都をご利用いただけるよう、利用促進に向けた取組を行いました。

しかしながら、2 月以降は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う事業の中止等が生じており、利用日数や利用料金収入が減となる影響が出ています。

#### 日数利用率

区 分		令和元年度
メインホール	利用率(日数)の目標値	82 %
	利用率(日数)の実績値	74 %
サウスホール	利用率(日数)の目標値	76 %
	利用率(日数)の実績値	77 %
ノースホール	利用率(日数)の目標値	74 %
	利用率(日数)の実績値	77 %

(※目標値は、指定管理者選定に係る申請書類における事業計画書記載の数値)

#### 入場者数

区 分	令和元年度 (人)
入場者数の目標値	510,000
入場者数の実績値	478,875

利用料金収入額

区 分	令和元年度（千円）
利用料金収入の目標値	343,149
利用料金収入の実績値	337,152

ジャンルごとの月別入場者数 (人)

月	音楽	舞踊	演劇	学会・会議	講演	その他	計
4月	19,560	990	2,295	1,700	5,820	3,795	34,160
5月	28,981	475	903	1,750	250	3,766	36,125
6月	27,572	1,381	3,380	550	2,222	3,607	38,712
7月	20,723	5,347	5,996	390	800	3,946	37,202
8月	27,289	3,350	2,519	450	5,800	1,237	40,645
9月	15,324	1,880	13,028	4,670	0	9,537	44,439
10月	15,139	391	5,540	0	1,500	2,106	24,676
11月	25,540	4,279	631	1,880	2,350	10,054	44,734
12月	22,538	4,269	6,400	500	2,500	685	36,892
1月	19,504	3,572	1,085	450	4,858	1,131	30,600
2月	13,333	6,823	281	700	2,550	5,033	28,720
3月	0	0	80	0	10	415	505
計	235,503	32,757	42,138	13,040	28,660	45,312	397,410

※上記は、メインホール・サウスホール・ノースホールの利用に係る入場者数である。

※入場者数について、自主事業は財団調べ、貸館事業は利用者（主催者）調べ。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年2月及び3月に予定されていた催しで中止となったものがあり、利用状況等に影響が出ている。

(2) 施設等の利用許可に関する業務

京都市京都会館条例及び同条例施行規則に基づき、施設の利用許可や利用料金の徴収などを行いました。施設利用料金等については、消費税率の引き上げに伴い、令和元年10月に改定しましたが、これに伴う利用者への周知や追加徴収等も適切に進めました。また、提案書記載のノースホールにおける作品創作やその稽古のために長期利用する場合の料金ルールの設定について、新たな料金割引（「準備・練習」料金のみを適用）の制度運用を開始しました。

令和元年度 ホール利用受付件数

舞台芸術公演	その他催し	合計
335件	134件	469件

(3) 舞台運営に関する業務

より良い催しの実現のため、舞台技術スタッフが、貸館担当スタッフとともに、施設利用者へのサポートや安全管理等を実施しました。日常的な機材メンテナンスや保守業者による点検作業等を計画的に実施したほか、舞台機構、照明、音響などの専門スタッフが、適切な管理や支援、トラブル対応等により、催しが安全な状況で確実に開催される状況を適切に維持しまし



た。

#### (4) 場内サービスに関する業務

ホールの催しにおいて、お客様と直接接し、入場管理、安全管理等を行うレセプション業務については、その人数や配置等について、施設利用者（主催者）とも細かい調整の上、実施しました。催しに応じて、お客様の年齢層等も大きく異なるため、業務日報等による過去の実績確認や細かな当日の状況共有、定期的な研修等により、ご案内方法等を工夫し、安全で快適に過ごしていただけるような案内に努めており、お客様の満足度向上につながっていると考えています。

チケット販売のほか、来場者へ施設や公演の案内等を行っている総合案内においては、催しに応じた案内方法の工夫等を行っています。

なお、チケットについては、インターネットを活用した販売も行っており、インターネット経由で予約し、コンビニエンスストアでの発券を選択される方が多い一方、電話による予約やお問い合わせをされる方も多く、丁寧な対応を心がけました。

舞台芸術公演では、ホール内のビューフェカウンターで、主催者とも調整の上、飲食サービスを提供したほか、CCC とも催し情報を共有し、店舗の商品仕入れやスタッフ体制の細かな調整を行っており、お客様の満足度向上につながっていると考えています。

また、館内には、飲料の自動販売機を3台設置しており、設置事業者との情報共有にも努め、欠品等が出ることがないように努めました。

#### (5) 施設設備及び備品の管理

当財団がこれまでの運営で把握してきた建物の特徴や設備の具体的な特性等に基づき、利用状況や季節変動等を踏まえた日常の設備運用や保守点検、備品管理等を工夫し、安全で効率的な施設運営に努めました。特に、電気設備や舞台設備、空調、楽器（ピアノ）といった、施設の運用に重大な影響を与える設備等については、予防保全の視点から、予め定期点検の日程を確保し実施しています。修繕等が必要となった場合には、速やかに対応するとともに、消耗品・備品等の管理も確実にを行っています。その他の各種管理業務や各種有資格者の配置等についても計画どおりに実施し、安心して利用できる施設環境を適切に維持しました。

#### (6) その他管理運営に関する事項

##### ・命名権契約を踏まえた施設運営

適切な名称の使用や無償使用权への対応、広報スペースの運用等の命名権契約に定められている点を踏まえた運営に努めました。また、広報スペースの一部であるミュージックサロンについては、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションと共同運営により別紙3のとおり運営を行いました。

## 4 事業執行体制等に関すること

### (1) 人材の確保、配置、研修等

#### ①職員数（提案書記載の人数を確保）

提案書記載の計画をもとに、下記の体制で運営にあたりました。

区 分	計画（人）	令和元年度（人）
副館長	（ 1 ）	1
総務部長	（ 1 ）	—
管理担当	（ 1 4 ）	1 6
事業担当	（ 9 ）	8
舞台担当	（ 8 ）	8
計	（ 3 3 ）	3 3

## ②研修の実施

	職員研修の実施実績
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接遇マナー研修</li> <li>・ 新規採用者研修</li> </ul>

また、自主事業の一環として開催した公開勉強会に劇場スタッフも研修の一環として参加しました。

公開勉強会「“みんな”のロームシアター京都をめざして」（3回）

- ① “みんな”の公演って？ — インクルーシブなコンテンツを考える
- ② “みんな”の劇場って？ — 劇場へのアクセシビリティを考える
- ③ “みんな”の客席って？ — 多様な観客へのアプローチを考える

## （2）再委託業務

特に専門性の高い分野の業務については、委託により実施しました。また、一部の業務については、利用者サービス向上の観点から、業務の安定的な実施と質の向上のため、契約期間を2箇年とし、プロポーザル型の業者選定を行っています。それぞれの委託先とは日常的な情報共有や定期的な協議などにより、業務を円滑に実施できるよう努めています。主な委託業務は下記のとおりです。

委託内容	受託業者	業務内容
舞台管理運営業務 （2箇年契約）	京滋舞台芸術事業協同 組合	ホールの舞台、照明、音響の進行及び 運営管理（舞台設営・撤去、舞台設備管理等）
会場案内・ 場内整理業務 （2箇年契約）	(株) コングレ	会場案内・場内整理等
施設・設備の 保守管理業務 （2箇年契約）	近建ビル管理(株)	施設・設備の保守・管理（電気設備・ 空調設備・給排水衛生設備・消防設備・その他建物 に付属する機器等）
清掃業務 （単年契約）	(株) タクミサービス	施設・敷地内の日常清掃（ホール内、

		各部屋, トイレ, ゴミ収集, 屋外等)・定期清掃 (トイレ, 床, ガラス窓)
警備業務 (単年契約)	国土警備保障(株)	施設屋内外の人的警備

### (3) その他

令和2年4月から就任予定として発表した館長人事案件については、劇場関係者をはじめとして、館長就任を巡って生じた懸念や、係争中の事案を抱える方を館長として発表した京都市及び当財団に対する批判の声もお聞きしている状況であることを受け、信頼回復に向けた取組を確実に実施するため、館長就任を1年延期することとし、市民や劇場関係者の皆様に対する信頼回復のための取組の具体的内容について、京都市とともに、検討を進めることとしました。

## 5 収支に関すること

本年度の支出規模は、約9億5000万円でした。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用減等もあり、収支差額は約100万円の赤字でした。

(千円)

	令和元年度	
	計画	実績
収入の部		
指定管理料	369,500	372,921
利用料金収入	340,000	337,152
事業収入	141,000	147,695
その他収入	74,300	89,714
収入計	924,800	947,482
支出の部		
事業費	296,500	312,191
人件費	288,100	278,394
物件費	340,200	357,996
光熱水費	59,000	57,211
その他支出	281,200	300,785
支出計	924,800	948,581
収支差額	0	△1,099

## 6 まとめ

令和元年度は、新たな指定管理期間の初年度として、指定管理業務を概ね計画どおりに実施

することができたと考えています。

そのうち、自主事業においては、各事業の目的に沿った多様な事業を数多く実施できましたが、公演等によっては、より多くの観客や新たな観客層等の来場を促すため、広報や営業、関連プログラムの充実などを検討していく必要があると考えています。

施設利用においては、舞台芸術公演や式典、集会、MICE といった様々な利用で、非常に多くの方にご利用いただくことができました。舞台設備や各種設備の適切な運用や保守、また各種管理業務等により、安全、安心で快適な劇場空間が提供できました。今後も繰り返しロームシアター京都をご利用いただけるよう、利用者のニーズの把握、利用相談への丁寧な対応等を行うとともに、新たな利用に結び付くような取り組みも進めていくことが重要であると考えています。

また、催しの安定的な開催とともに、賑わいスペース事業の店舗等の運営により、施設への来館者も多く、賑わいの創出にもつながりました。岡崎地域の関係施設等とも連携し、こうした賑わいを地域の価値向上にさらに結び付けられる工夫も必要と考えています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症により、令和2年2月より、施設の利用や事業等に影響がかなり出ました。今後の施設運営においては、この事態へ適切に対応する必要があると考えています。

今後も、業務の評価についての視点を常に持ちつつ、各事業や各業務を着実に進めていくことで、指定管理業務における目標の達成に向けた施設運営を行ってまいります。